

知っておきたい 整形外科手術アプローチの 要点と盲点

introduction

運動器を構成する筋・骨・関節・神経は、組織・器官として単独に機能するだけでなく、相互かつ密接に作用し合うことで身体活動を可能にします。整形外科診療ではこれらの解剖学、生理学、病理学、および運動学を熟知しなければ、整形外科疾患や障害の病態を診断したり、治療したりすることはできません。そして、その障害・疾患を克服するための侵襲的な治療選択肢である手術は、合併症の回避を図りつつ、最小の侵襲とともに最大の治療効果(手術成績)をもたらすものでなければなりません。その手術成績の成否は、整形外科手術アプローチが左右するといっても過言ではありません。術者であれば誰しも明日の手術のために、診察所見、X線・CT・MRI画像を頭に叩き込み、解剖学書・手術書を丹念に読み、手術の要点と盲点を絶えず反芻し、夢に出るくらい手術アプローチを頭の中で何度も何度もシミュレーションして手術に対峙するものです。どのような場面でも冷静沈着かつ的確に対処でき、最初の切開時に最後の閉創まで見通すことのできる人こそ真のエキスパートだと思います。

本特集では、各部位における代表的な手術アプローチと内視鏡を用いたアプローチについての要点や盲点を、エキスパートの先生方に的確にお纏めいただきました。

ご執筆いただいたアプローチ法は、長年にわたり先達が取り組んで来られた整形外科手術における不断努力と蓄積された叡智によって研ぎ澄まされたある種の「型」であろうと考えます。読者の皆様には、どうか本誌を机上に置かれ、整形外科手術習得の一助としてくだされば編者として望外の喜びであります。また、ご多用のなか、精力的に貴重なお原稿をご執筆いただいたすべての先生方に、編者として厚く御礼申し上げます。

島根大学医学部整形外科
内尾祐司